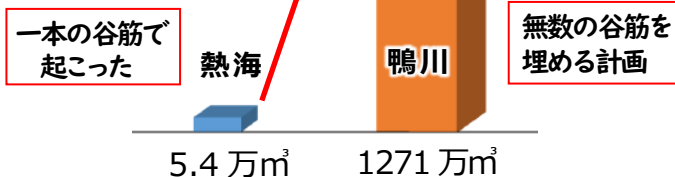


熱海の土石流災害!! 鴨川も同じ災害が起こる懸念!!



7月3日静岡県熱海市伊豆山で、1日からの雨量が300ミリ近くになり、川の上流部の盛土(5万 m^3)が崩れ、谷筋をえぐりながら10万 m^3 の土砂が下流部の町を襲い大惨事が起こった。

盛土の量 235倍!



鴨川メガソーラー建設計画の懸念

- 150haの建設予定地の36万本の木を伐採して、最大60m尾根を削り、最大80m谷を埋めて、平らにする土地の大改変を伴う造成工事。前例がない規模の林地開発なので、机上計算では辻褄があっても実際には何が起こるかわからない。
- 旧審査基準のもと許可がおりた計画
 - ・ 近年の気象の変化に調節池の容量など排水施設は対応できるか?
 - ・ 調節池の浚渫など管理し続けられるのか? (管理を怠ると土砂災害を起こしかねない)
 - ・ 盛土のために谷筋に敷く暗渠管は総計6000m。直径50cmの暗渠管は最大80m(平均20m)の盛土の土圧に耐えられるのか? 暗渠管が土砂などで目詰まりし機能不全にならないか?
 - ・ 切土した標高200mの平坦地に11,000トンの雨水を貯留するオンサイト(洪水調節池)の南の斜面は「土石流危険渓流」に指定されている。計画を上回る雨量の場合、溢れた水が斜面に流出したり、斜面の崩壊につながる懸念がある。
- これまでも不誠実な態度が問題になってきた事業者が、法令や行政指導に従うのかどうか、誠実性に大きな疑い。

現在の温暖化による災害の頻発、気象状況を考えると「カーボンゼロ」は、私たち大人が待ったなしで取り組むべき大きな課題です。そのためには太陽光発電は貴重な再生エネルギー源です。しかし、そのためにCO2を吸収してくれる森林を伐採し、日本の豊かな農林水産業を支える山を削り、土砂災害につながりかねない太陽光発電所の建設には反対します。山を再生不能までに破壊し、人工的な水処理を永久にし続けられる保証のないメガソーラーの建設に反対します。

私たちの活動は皆さまからの募金で成り立っております。引き続きカンパ、ご支援、ご協力をお願い致します。

鴨川の山と川と海を守る会 代表 勝又國江 <振込先> ゆうちょ銀行 00240-2-105182 鴨川つどいの会(鴨川の山と川と海を守る会)

http://mamorutsudoi.net [連絡先] E-Mail : kamogawa.mamoru@gmail.com / TEL : 080-2333-1804 (今西)

★フェイスブック <https://www.facebook.com/kamogawa.mamoru/>

ネット署名 <https://goo.gl/Bj29HQ>



尾根を削り、谷を埋める土地の改変をとまなう
山の大規模開発⇒水の道を塞ぎ、大地の水環境を壊す
高田宏臣氏(専門家)コメント

災害発生の翌日(4日)市内被災箇所とその周辺、発生地点からその上部を単独で現地調査をしました。

急峻な山あいの熱海市において、なぜ一本の谷筋で今回ここにだけ大規模な土石流が発生したのか? 盛土だけでなく斜面横断道路(作業道)・メガソーラー建設地・送電線の電柱建設地など一帯の山林開発を見る必要がある。尾根筋の木々を伐採して平坦な土地にすると、雨が降っても浸み込まず、泥水となって周りの斜面を痛めつつ谷に流れ込む。そしてその細かな泥が谷底の表層に堆積して土の中の水脈を塞ぐ泥詰まりを起すようになり、山の水源涵養能力、保水機能は失われていく。

今回の場合、数年にわたって大地の水環境を壊して危険な状態にしてきたところ、盛土の崩壊が引き金になって大規模土石流災害が起こったと考えられる。

高田宏臣氏 株式会社 高田造園設計事務所 代表
NPO 法人 地球守 代表理事

国内外で環境再生の指導や、造園・土木設計施工を行う。
著書に『土中環境』、共著に『地球守の自然読本』がある。

関係省庁の対応

- 赤羽国交相 全国で「盛土(造成地)の総点検」を実施する方針を示した。
- 梶山経産相 原因究明の一環として、メガソーラー事業者に対して聞き取りを実施する方針を示した。
- 小泉環境相 「促進区域」(再エネ発電所を積極的に誘致する区域)から土砂崩れなど災害の危険性が高いエリアを除外すると表明。